



東京都立鹿本学園 学校通信 令和6年7月19日号

東京都立鹿本学園

校長 堀江 浩子

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

# 学びの虹

## 聴く力 ～聴き耳頭巾の精神より～

私は、仕事をしながら「音楽をきく」時は「聞く」、じっくり「音楽をきく」時は「聴く」。そして、話をきく時は、「聴く」ことを心掛けています。また「聴」の漢字を分解すると、ステキです。「耳にプラス(+)して、目と心も相手に向けて、きく」となります。

廊下等で子供たちに会った際は、急ぎの用がない限り言葉をかけます。特に「挨拶」が多いですが、子供たちは「おはようございます」「校長先生！バーン」と返したり、お辞儀をしたり、ふっと目を開けたり、口が動いたり、その日によっても千差万別。「挨拶」というほんの少しの時間ですが一人一人違う子供たちの言葉や表現をしっかり受け止めることが、子供たちの心の成長にわずかですがつながっていくと考えます。

詩人茨木のりこさんが、日本昔話「聴き耳頭巾」をとりあげた「聴く力」という次のような詩があります。「聴き耳頭巾」の内容は、【子キツネを助けたお爺さんは、母キツネからお礼に「頭巾」をもらいます。頭巾を被ると動物の話し声がかかるようになり、それ以来お爺さんは、いろいろな動物の話を聴いて楽しんでいました。ある日、スズメの話を聴いていたら、長者の娘の病気は、くすの木の祟りとのこと。くすの木にも話を聴いたら、長者の建てた蔵が、くすの木の上に建っていると聴き、早速長者に蔵を取り壊してもらったところ、娘の病気が治り、お爺さんは長者より御褒美をいただいた。そして、その末裔(まつえい)が、頭巾の栄誉だけを欲しがり右往左往する姿を風刺し、現代社会へ投げかける。】という話です。

ひとのこころの湖水 その深浅に 立ちどまり耳澄ます ということがない  
風の音に驚いたり 鳥の声に惚けたり ひとり耳そばだてる  
そんなしぐさからも遠ざかるばかり

小鳥の会話がわかったせいで 古い樹木の難儀を救い  
きれいな娘の病気まで直した民話「聴き耳頭巾」をもっていた うからやから (うから:親族 やから:家族)  
その末裔(すえ)は我がことのみは無我夢中 舌ばかりほの赤く くるくと空転し  
どう言いくるめようか どう圧倒してやろうか

だがどうして言葉たり得よう 他のものを じっと 受けとめる力がなければ (茨木のり子「聴く力」)

「聴く力」に大切なのは、「立ち止まること」、「耳を澄ますこと」、そして「他のものをじっと受けとめること」や「言葉の真意を考えること」。私たち、学校スタッフは「聴く力」を更に磨いていながら、「聴き耳頭巾」の精神を保護者の皆様と共に継承していきたいと考えます。

本校は11年目を迎え、新型コロナウイルスも5類移行から2年目となり、教育活動がより進み始めています。一方、社会状況(働き方改革等)や気候等の変化もあり、コロナ禍前の教育活動に戻ることは難しいと考えます。その中で、様々な行事を含めた教育活動を「知恵と工夫」で学校スタッフは展開をしています。特に水泳指導においては、朝早く出勤し、屋内プールの天敵の湿度そして室温・水温を下げるために、大型扇風機を回したり、水中で水を攪拌(かくはん)したりして、子供たちがプールに入れるように努力をしています。しかし、プール内が「暑さ指数31(気温ではありません)」になったり、「熱中症警戒アラート:危険」が発表されたりすると中止にせざるを得ません。今後はプールの時期を再考する必要もあります。

さて、7月13日(土)の夏祭りでは、PTA役員の皆様と「学校だからこそ楽しめる！」ことをコンセプトに行いました。参加された子供たちや家族の方も終始笑顔で参加され大盛況で良かったと考えます。実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

夏休みが始まります。2学期も笑顔で会いましょう。1学期、本校の教育活動に御理解、御支援をいただきありがとうございました。

鹿本学園校長 堀江 浩子

## ～訪問学級紹介～

肢体不自由教育部門訪問学級には、10名の児童・生徒が在籍しています。1回2時間を標準として、週3回を上限に、各御家庭へ訪問して授業を行っています。

国語・算数/数学（読み聞かせやパネルシアター、タブレット端末を使用した学習）、音楽（歌遊びや楽器を使った活動）、図画工作/美術（感触遊びや制作活動）等の教科学習、自立活動（身体の取り組み）、生活単元学習（季節や行事に沿った単元）等、御家庭の御協力のもと、一人一人の健康状態や課題に応じ、一対一で学ぶことができる良さを活かして取り組んでいます。

また、1学期は、スクーリング学習として、学校の教室で友達と共に学習したり、体育発表授業参観に出席したり、社会見学に参加して校外で学習したりした児童・生徒がいました。オンライン学習で、学年や学習グループの友達と共に学習することもありました。さらに、今年度、入学した児童・生徒は、御自宅での入学を祝う会に校長先生が出席し、御家族の皆様、担任と共に入学をお祝いすることができました。このように、学校の一員として「集団での学び」や「友達と一緒に学習すること」も大切にしています。

本校S棟1階の100m廊下に、訪問学級の児童・生徒の作品を掲示しています。ぜひ、御覧ください。

S部門 小学部 訪問学級担当：下田 恵子

## ～副籍交流について～

いつも副籍交流に御理解、御協力いただきありがとうございます。

今年度の交流の状況については以下のとおりです。

	交流形態		地域指定校数		
知的障害教育部門	直接交流	54名	江戸川区	小学校	52校
	間接交流	63名		中学校	21校
肢体不自由教育部門	直接交流	27名	葛飾区	小学校	4校
	間接交流	16名			

現在、直接交流希望者は打合せ訪問をすすめているところです。

交流はお子さんも保護者の方も楽しみでありながら、緊張もしながら地域指定校に出向くことが多いかと思います。

少しでも安心して楽しく交流を行うことができるよう、担任も特別支援教育コーディネーターも協力いたしますので、心配なことがありましたらお気軽にお知らせください。もちろん、「こんなことやってみよう！」ということも大歓迎です。

お子さん、保護者の方の思いに寄り添った活動ができるよう、地域指定校とも相談しながら交流の形を検討していきます。年度末には「しかもとの副籍」で交流内容を御報告いたします。1年に1回、希望調査を行っています。

ぜひ参考にいただき、今後の交流希望について御検討される際にお役立てください。

サポートデスク 副籍交流担当：丸吉 南海